

甲賀市レッドリスト 2022 繁殖鳥類 概要

◇ 甲賀市の鳥類（繁殖鳥類）（鳥類相および地理分布の特徴、解明度）

- ・ 甲賀市の鳥類は、174 種が記録されている（「甲賀市鳥類目録および生息状況 2017」）。また、水口の市街地付近の丘陵地にある、みなくち子どもの森園内では 131 種が記録されている（みなくち子どもの森自然館の未発表データベースより）。
- ・ 鳥類は飛翔能力が高いため、甲賀市に特有な種類がいるわけではないが、生きものが豊富な丘陵地帯の水田や溜池にチュウサギなどサギ類、カワセミ等が普遍的に生息し、鈴鹿山脈の深い溪谷にはクマタカ、アカショウビンなど希少種が、自然度の高い野洲川にはカワガラス、イカルチドリが見られるなど、市内に存在する多様な環境に、多様な鳥類が生息する。近年に市内へ分布拡大してきたイソヒヨドリは、市域の河川沿いを中心に市街地まで普通に記録されるようになった。外来種のソウシチョウは、当初は越冬期や春季を中心に観察されたが、近年は繁殖期になっても、鈴鹿山脈の稜線付近や水口丘陵の笹やぶで、複数のさえずりを聞くようになった。
- ・ 水口の市街地付近では、近年、ハシボソガラスやムクドリが急増し、特に秋～春に若鳥のねぐらとなる街路樹や樹林近くの民家から苦情が増加している。また、甲南町ではサギのコロニー（集団繁殖地）が民家付近に形成され、鳴き声や悪臭がもたらされるために、この十数年に 3 回の人為的な追い出しとコロニー移動が繰り返されるなど、野鳥と人との間に軋轢が生じている。しかしながら、これら野鳥の増加も、人による土地利用の変化（都市的な環境の拡大や里山の荒廃）に起因する部分が多い。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 繁殖鳥類 掲載方針

- ・ 甲賀市レッドリストでは、市内に分布する鳥類（通過種を含む）のうち、繁殖鳥類を評価対象とした。飛翔能力が高い鳥類の生息状況を判定する場合、旅鳥（通過する渡り鳥）や冬鳥（寒暖や食物の増減等で年変動や移動が頻繁）は、市域の限定された範囲の生息状況を判断し難いためである。
- ・ 「繁殖」鳥類としているが、必ずしも直接的な繁殖根拠が得られなくても、繁殖期に一定の個体が定着していることが明らかな場合を含めた。例えば「◎」と標記されても、「繁殖期にさえずりが恒常的にある」など間接的な繁殖根拠のみで、営巣や巣立ち雛の確認など直接的な繁殖根拠がない場合もある。
- ・ 2017 年のレッドリスト改訂後も、「みなくち子どもの森野鳥クラブ」のメンバー等を中心にして、市内でレッドリスト掲載種のモニタリングを行ってきた。
- ・ カテゴリー定義：「絶滅種」は過去に生息したが、現在は見られない種。「絶滅危惧種」は繁殖数が 5 ペア程度かさらに少ない、「絶滅危機増大種」は 1 桁後半～30 ペア程度を目安に選定した。「要注目種」は生息地が限定される傾向にある、良好な環境指標である、

減少傾向が予想されるが情報不足である、種について選定した。「地域種」については、甲賀市付近に特徴的な分布をする種や、市内に特有な形態や遺伝の型が分布する種、市内の環境を特徴づける種とした。

- ・ 外来種については、別に扱うべきであり、評価対象としない。
- ・ 偶産的な繁殖記録と考えられる種など、不確実な情報については、評価対象外とした。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 繁殖鳥類 掲載種の概要

- ・ 各カテゴリ掲載種数（甲賀市レッドリスト 2007, 2012, 2017 と比較）は以下の表のとおりであった。

表. 甲賀市レッドリスト 2022 繁殖鳥類 掲載種数

＼	2022	2017	2012	2007	備考
絶滅種	0	0	0	0	
絶滅危惧種	9	9	8	9	
絶滅危機増大種	17	16	17	9	
要注目種	25	25	22	21	
地域種	1	1	1	5	地域種の定義変更(2012)
(合計種数)	52	51	48	44	

- ・ 主な掲載種として、絶滅危惧種ではミゾゴイ、カッコウ、タマシギ、イヌワシ、ヤマセミ、ブッポウソウ、絶滅危機増大種ではヤマドリ、ヒクイナ、サシバ、クマタカ、アオバズク、オオアカゲラ、カワガラス、要注目種ではオシドリ、カイツブリ、チュウサギ、サンコウチョウ、コサメビタキ、地域種はカワセミを指定した。

◇ 甲賀市レッドリスト 2017 繁殖鳥類からの変更とその理由

- ・ 絶滅危惧種 9 種（前回 9 種）では、前回 8 種がそのまま留まり、コルリが絶滅危機増大種からランクが上がった。鈴鹿山脈ではシカによる林床植生の消失が顕著で、コルリの生息環境が減少している。一方でヨタカは、鈴鹿山脈の渓谷や急斜面に形成された草地環境に一定の生息数が確認されたことから、絶滅危機増大種へ移った。
- ・ 絶滅危機増大種 17 種（前回 16 種）では、前回 16 種のうち 15 種が留まり、コルリが絶滅危惧種へ移り、ヨタカが絶滅危惧種から移ってきた。また、ヤブサメが要注目種からランクを上げた。新たに絶滅危機増大種となった種のうち、ヤブサメは鈴鹿山脈などで確認が急減し、水口町の丘陵地でも以前と比較して繁殖地が限定されるようになった。
- ・ 要注目種 25 種（前回 25 種）では、前回 25 種のうち 24 種が同じ要注目種に留まり、ヤブサメが絶滅危機増大種へ上がった。また新たに、(掲載種外から) コガラが要注目種となった。市内ではコガラが繁殖期に確認できるのは、鈴鹿山脈の渓谷の森林に限定される。
- ・ 地域種 1 種（前回 1 種）では、甲賀市の鳥、カワセミを引き続き指定した。市内では生

息密度は低いものの、各町域に広く分布する。水口町付近の観察では、冬季にため池が凍結することも珍しくないことから、季節的に餌場を替えて、小さな移動を繰り返しながら生息するものと推察される。

- 今回のレッドリスト掲載種 51 種から、生息環境の内訳を確認すると、半数以上の 30 種以上が森林を主な生息場所とする種であった。大木の樹洞や裂け目の穴などが減少して（穴を掘りやすい古木や大木が減少して）、フクロウ、オオコノハズク、アオバズク、ブッポウソウ、アカショウビン、オオアカゲラなど繁殖が困難な種がいると指摘できる。また、繁殖に広い森林を必要とするクマタカ、ハチクマなど猛禽類や、山地の広葉樹林を必要とするトラツグミ、アオバト、渓谷と溪流の両方を必要とするミゾゴイ、ヤマセミなどの種らが含まれる。一方、池沼や湿地、河川など水辺を主な生息地とする種は 15 種あまりでカイツブリ、ヒクイナ、バン、タマシギ、各種サギ類やカワセミなどが含まれる。数十年前の甲賀市では里山域に比較的広く分布した、カッコウ、ヨタカが絶滅危惧種に入っている。コルリとヤブサメのランクアップは、シカの食害により、森林の下層植生が消失した場所が増加したことと関係すると考えられる。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 繁殖鳥類 今後の対策・留意点

- 絶滅危惧種、絶滅危機増大種の繁殖鳥類は、近いうちに市内から絶滅する可能性が少なくない。注意深く見守り、現在の環境を保全して、人為的な環境変化を起こさないように配慮が必要である。
- 要注目種については、絶滅危機増大種ほどではない希少種、環境指標種、情報不足の種の 3 つが含まれる。特に、各種の環境調査報告書において、繁殖鳥類の生息環境を評価する場合、環境指標種の意味からこれらの種をレッドリストに掲載することは重要と考えた。
- オシドリは繁殖の可能性が考えられるが、確証が得られずに要注目種としている。ノスリは、滋賀県レッドデータブック 2020 年版においても土山町での繁殖が記された。ノスリの繁殖事例は近年、西日本で増加傾向にあるとされるため、要注目に止めた。
- ミゾゴイ、バン、ヒクイナ、タマシギ、ヨタカなど夜行性であったり、水辺のヨシ原の中に生息したりする種は、確認の機会が少なく、調査不足の面がある。カイツブリも池沼の環境劣化により減少していると言われており、今後意識して調査する必要がある。
- 市内のコロニーで繁殖するサギ類のうち、ゴイサギ、チュウサギの観察できる機会や個体数が減少している。春・秋の渡り時期に見かけるアマサギ、コサギは市内で繁殖していない可能性も高い。サギのコロニーは住宅地付近に形成されることも多く、住民の苦情から行政が追い出しをするケースが続いている。このコロニーは、移動の度に規模が小さくなる傾向にあり、コロニーで繁殖するサギ類のうち弱い種類から繁殖数が減少している可能性がある。
- コルリ、ヤブサメなど、森林の下層のササ類などを営巣場所とする野鳥にとって、シカ

- の急増による下層植生の衰退は生息環境を失うことにつながる。
- ・ 丘陵地の里山の森林の成熟（人為的な管理がなされず放置された場所が多い）により、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、サンショウクイの分布域や個体数が増加している可能性が高い。
 - ・ 精度の高いレッドリスト策定のため、鳥類の地道な調査を継続してゆきたい。

【参考文献】

- 環境省（2020）環境省レッドリスト 2020. <<http://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>>
（2020年3月27日公表、2022年9月閲覧）.
- 河瀬直幹・小西省吾・横山明子・西村淳子・新保建志（2010）みなくち子どもの森の鳥類.
みなくち子どもの森自然館(編), みなくち子どもの森年報告第5号（平成17～20年度）, pp.51-56.
- 甲賀市みなくち子どもの森自然館（2007）甲賀市レッドデータブック- 守ろう!!甲賀の自然と生き物. 80pp., 甲賀市, 甲賀.
- 甲賀市みなくち子どもの森自然館(2013)甲賀市レッドリスト 2012
<<http://www.city.koka.lg.jp/item/10943.htm>>（2022年9月閲覧）.
- 甲賀市みなくち子どもの森自然館(2018)甲賀市レッドリスト 2017
<<http://www.city.koka.lg.jp/item/11775.htm>>（2022年9月閲覧）.
- 滋賀県生きもの総合調査委員会（2021）滋賀県で大切にすべき野生生物-滋賀県レッドデータブック 2020. 675 pp., 滋賀県自然環境保全課, 大津.

【繁殖鳥類担当者：氏名（所属）】（敬称略、あいうえお順） ◎：監修

- 青木 保彦（日本野鳥の会滋賀）
東 正也（滋賀県野鳥の会）
井野 勝行（滋賀県野鳥の会）
笠井 誠吾（滋賀県野鳥の会）◎
鬼頭 洋一（滋賀県野鳥の会）